

## 令和7年度定期評価結果

### 地域がん診療病院 北信総合病院

#### <良好な事項>

- 薬物療法について
  - ・irAE 対策の一環として、免疫チェックポイント阻害薬の使用患者であることを電子カルテに付箋表示していること。
  
- 相談支援について
  - ・明るい色ののぼり旗を用いる等、相談支援センターへのアクセスを良くする工夫を施していること。
  - ・地域の学生へがん教育を行い、がん検診や相談支援センターに関する啓発活動を行うと共に、学生を通じその親や家族へも検診の受診勧奨等を行っていること。
  
- 緩和ケアについて
  - ・診断時に「PRO-ACC」という院内独自の質問票を用いており、単に身体的な苦痛だけでなく精神的な苦痛のスクリーニングができていること。また、質問票では治療方針にも言及し、患者と医師の共同意思決定ができており ACP としても機能していること。
  - ・リンクナースのシャドーイングを実施する等、緩和ケア提供体制の充実を目指していること。
  
- その他良好な事項について
  - ・地域連携という観点から、多職種カンファレンスに地域の薬剤師が参加していること。

#### <指定要件に係る事項>

- なし

#### <指定要件を超えて検討を依頼する事項>

- 放射線療法について
  - ・放射線治療に関する常勤医師を配置してもらいたい。
  - ・現在養成中とのことだが、専従放射線技師の複数配置をしてもらいたい。
  
- 薬物療法について
  - ・通院治療センターに常勤の医師がいないため、緊急時の体制強化のためにオンコール当番体制等の対策を取ってもらいたい。
  - ・irAE の対応迅速化や院内での事例蓄積に繋がるため、免疫チェックポイント阻害薬の対策チームを編成してもらいたい。
  - ・専門の腫瘍内科医を常勤配置してもらいたい。
  - ・認定薬剤師の複数配置を目指してもらいたい。
  - ・全国的に対応している医療機関は少ないが、投与量を確認する、上限設定を設けるといった方法により、経口抗がん薬のみの患者の院外処方に対する関わりを増やしてもらいたい。
  
- がん登録について
  - ・がん登録の中級認定者を養成してもらいたい。